

2023年7月28日(金)

10月29日(日)

開館日：金、土、日および祝日

開館時間：10時～17時

後援：松阪市／松阪市教育委員会／三重エフエム放送株式会社

特別協力：兜屋画廊

一般500円、高校・大学生300円、中学生100円、小学生以下無料

※65歳以上の方、20名様以上の団体は100円引、障害者手帳等をお持ちの方は200円引となります。

※展示作品の一部が替わります。

前期：7月28日(金)～9月10日(日)

後期：9月15日(金)～10月29日(日)

熱情の画家

同時開催

幻想世界への招待

村上肥出夫展

MURAKAMI Hideo

サイトウミュージアム

三重県松阪市魚町1-1807-1 TEL: 515-0082 TEL: 0598-21-1111



サイトウミュージアム
SAITOU MUSEUM

<https://www.matsusaka-saito-museum.com/>

熱情の画家

村上肥出夫展

MURAKAMI Hideo

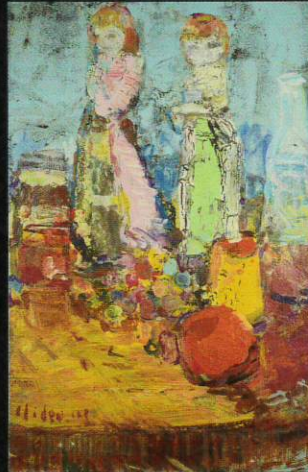
とても厚く塗られた絵具、大胆な筆の跡、複雑で繊細な色彩。村上肥出夫（1933-2018）は、眼の前にある風景や静物を対象（モチーフ）にしなから、それらを突き抜けた力強いイメージを画面に定着させています。

20歳の年に画家を志して上京、日雇いの仕事などをしてながら絵を描き続けた村上は、銀座・並木通りの路上で絵を販売していたところを彫刻家の本郷新に認められ、兜屋画廊を紹介されます。画廊の計らいでアトリエなどを提供され画家として制作に没頭、1961年から63年の2年間で約3000点が制作されました。その後パリやニューヨーク、イタリアなどを旅行。日本においても住居を転々としながら絵を描き続け一躍注目を浴びた当時は「放浪の天才画家」「画壇のシンデレラボーイ」などと言われました。

文豪・川端康成も村上の良き理解者でした。「ともかく心力と勇気を私に伝える」「豊烈哀号の心情を切々と訴へて人の胸に通う」と作品を評し、この「異彩の画家」の油彩画数点を購入、部屋に飾って鑑賞していました。

ところが、画壇の寵児であった村上は、1979年突如として出身地である岐阜に戻ってしまいます。没後5周年を迎える本年、当ミュージアムで初めてご紹介する熱情に満ちた絵画の数々を通して、その魅力を探ります。

同時開催
幻想世界への招待



《テーブルの上の人影》1961年 油彩・キャンヴァス



《紫の林》1961年 油彩・板



《プロレニユの森》制作年不詳 油彩・キャンヴァス



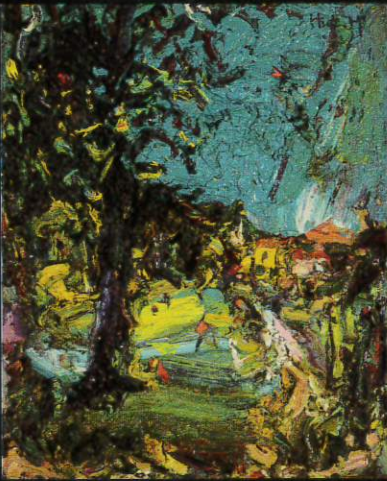
《公園にて》1969年 油彩・紙



《東京タワーの見える風景》1979年 油彩・板



《セーヌ》1963年 油彩・板



《一本の木（パリ郊外）》制作年不詳 油彩・キャンヴァス

■会期中のイベント（入館チケットが必要です）
①学芸員によるミュージアム・トーク
7月30日（日）、9月23日（土・祝）
いずれも午後2時から約30分
②学芸員による絵画のお話スライド・トーク
展示室にて絵画のよもやま話に花を咲かせます。
8月27日（日）③ゴッホ礼賛 佐伯祐三と村上肥出夫
10月14日（土）④風景画の魅力
いずれも午後2時から約40分 事前申し込み不要。

⑤座談会
2F展示室にて、村上肥出夫の才能を認め世に送り出した関係者をゲストに招き、当館館長との対談を行います。
ゲスト・兜屋画廊 小澤禮子氏
10月22日（日）午後2時から約60分
詳しくはHPをご覧ください。

■友の会へのお誘い
お申し込みの日から1年間、何度でも鑑賞いただけます。小冊子は展覧会ごとに1冊進呈。お一人様年会費2千円。ご入会、ご継続時にお好きなポストカードを1枚進呈します。

■次回展覧会予告
「味わう静物画」
2023年11月3日（金・祝）- 2024年2月25日（日）



交通のご案内 | 近鉄・JR 松阪駅南口より徒歩約8分。
お車でお越しの際は近隣の有料パーキング等をご利用ください。

三重県松阪市魚町 1807-1 〒515-0082
Tel.0598-21-1111

サイトウミュージアム

https://www.matsuyaka-saito-museum.com/

